

II 佐藤国際交流賞

佐藤国際交流賞は、佐藤昌氏が社団法人日本公園緑地協会会長、名誉会長として長年に亘り我が国の公園緑地行政の発展並びに海外諸国との専門的交流や東洋、欧米諸国の公園緑地制度等に関する数々の優れた研究著述を通じ、造園分野における我が国の国際的地位の確立に大きな貢献をされたことを記念して、平成4年に設けられております。

第29回佐藤国際交流賞受賞者（敬称略・五十音順）

① ^{いしむら}石村 ^{としや}敏哉 （61歳）

現 台湾高野景觀規劃股份有限公司 董事長

受賞理由

氏は、1987年に宜蘭縣立羅東運動公園の責任者として台湾との関りが始まり、その後宜蘭縣政府から公園、風景区などの多くの仕事を依頼される。1998年支店を設立若き台湾人の造園家の育成に励むとともに中華民國景觀學會の理事にも就任、台湾造園界の地位向上に貢献する。2014年成長した台湾人スタッフと共に現地法人を設立。将来にわたって日本及び台湾で培ってきた造園の理念、技術の継承に道筋をつけた。在台30年公共、民間案件で多くの賞を受賞している。又宜蘭縣政府の都市計画、公共芸術、都市設計などの委員などに就任、専門家として縣の政策推進の顧問としての役割も果たす。また日本と台湾及び世界各国の造園界の国際交流にも大きく貢献した。

② ^{こしぎわ}越澤 ^{あきら}明 (68歳)

現 北海道大学名誉教授

受賞理由

氏は、社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会会長等として、我が国の公園緑地行政や古都保存行政等に多大なる貢献をされてきた。その一方で、永きにわたり継続して満州国における都市計画の研究・執筆を行ってきた。今回、氏が収集した満州国長春市の都市計画図等を中心に編集した「1895～1945年長春城市規劃史図集」が中国で出版されたところである。本佐藤国際賞の佐藤昌氏も関わった長春市（新京市）等の都市計画、緑地計画がビジュアルに理解できる図集となっている。また、一連の満州国関連の書籍においても、公園緑地を含めた都市計画について論述され、戦前の都市計画、公園緑地計画の思想を知ることができるものとして他に類のない貴重な業績である。これらの研究・著述は、中国政府等も含めた永年の国際交流によるものであり、都市計画、公園緑地分野の発展に大きく貢献するものである。

③ ^{ホルスト}Horst G. ^{シュミット}SCHMIDT (81歳)

元 カールスルーエ市公園緑地局長

受賞理由

氏は、佐藤国際交流賞としての功績には、3つの視点があげられる。その1つは、氏が30年以上、カールスルーエ市公園緑地局にあって、1967年、連邦庭園博（BUGA）カールスルーエ開催時、故上原敬二博士が設計・施工された日本庭園の維持管理を長く指導し、2014年に「カールスルーエ市の日本庭園」を執筆・刊行し、多くのドイツ人はじめ日本人、諸外国人にその価値を広めてきた。その2は、1980年から、都市内の公園緑地における緑の質的多様性に重点を置き、市内の公園緑地計画・設計・施工・維持管理で多くの事例を作り出し、国内外の専門家と交流を図り、運動を活発化させてきた。多くの日本の技術者、行政担当者などが度々視察し日本に大きな影響を及ぼした。その3は、カールスルーエ市の日本庭園に大きく影響を受け、日本庭園に広く興味を持ち調査研究すると同時に、15年以上にわたりドイツ人の日本庭園視察に同行、体験させ理解させてきた。さらにドイツ国内の40か所にある日本庭園を調査し2020年「ドイツの日本庭園」の本を執筆刊行した。

(年齢、役職は令和3年3月31日現在)